

千葉市
障害者計画・障害福祉計画策定に係る
実態調査報告書

－障害者生活実態・意向調査－

平成 26 年 3 月

千葉市

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的と方法.....	3
2 アンケート調査結果の概要	9
3 団体ヒアリング調査結果の概要	30
第2章 アンケート調査の結果.....	37
I 在宅の方（18歳以上）を対象とした調査	37
1 ご本人について.....	40
2 医療機関への受診状況について	47
3 ご家族や介助者について	54
4 相談や情報入手について	61
5 暮らしについて.....	68
6 災害対策について.....	82
7 日中活動・就労について	89
8 将来について	97
9 障害のある人に対する理解度について	100
10 サービスの利用について	106
11 収入や利用者負担について	114
12 市の障害者施策について	116
13 自由意見	117
II 施設に入所している方を対象とした調査.....	125
1 ご本人について.....	128
2 医療機関への受診状況について	134
3 施設への入所について	139
4 相談や情報入手について	143
5 日常生活（施設での生活）について.....	147

6	災害対策について	163
7	将来について	170
8	障害のある人に対する理解度について	176
9	サービス利用について	182
10	収入や利用者負担について	183
11	市の障害者施策について	185
12	自由意見	186
Ⅲ	18才未満の方と保護者の方を対象とした調査	193
1	ご本人について	196
2	医療機関への受診状況について	203
3	ご家族や介助者について	210
4	相談や情報入手について	217
5	暮らしについて	224
6	災害対策について	238
7	療育・保育について	245
8	学校・教育について	251
9	日中活動・就労について	256
10	将来について	257
11	障害のある人に対する理解度について	259
12	サービスの利用について	263
13	収入や利用者負担について	270
14	市の障害者施策について	272
15	自由意見	273
Ⅳ	発達障害のある方を対象とした調査	281
1	ご本人について	284
2	医療機関への受診状況について	288
3	ご家族や介助者について	292
4	相談や情報入手について	296
5	暮らしについて	300

6	災害対策について.....	302
7	日中活動・就労について.....	306
8	将来について.....	310
9	障害のある人への理解度について.....	312
10	サービス利用について.....	315
11	収入や利用者負担について.....	323
12	市の障害者施策について.....	324
13	自由意見.....	325
V	発達障害の18歳未満の方とその保護者の方を対象とした調査.....	331
1	ご本人について.....	334
2	医療機関への受診状況について.....	339
3	家族や介助者について.....	342
4	相談や情報入手について.....	346
5	暮らしについて.....	350
6	災害対策について.....	352
7	療育・保育について.....	356
8	学校・教育について.....	360
9	日中活動・就労について.....	363
10	将来について.....	364
11	障害のある人の理解度について.....	366
12	サービス利用について.....	369
13	収入や利用者負担について.....	376
14	市の障害者施策について.....	377
15	自由意見.....	378
VI	インターネットモニターを対象とした調査.....	383
第3章	障害者団体ヒアリング調査の結果.....	405
1	当事者団体.....	407
2	障害児者の親の会.....	427

3. 家族会・事業者団体連絡会	442
-----------------------	-----

資料編

- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（在宅の方）
- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（施設に入所している方）
- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（18 歳未満の方と保護者の方）
- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（発達障害のある方）
- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（発達障害の 18 歳未満の方とその保護者の方）
- インターネットモニター調査票
- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（障害者団体ヒアリング事前調査）

第1章 調査の概要

1 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

福祉・保健・医療・雇用・教育・生活環境など、幅広い分野を対象とした障害者施策の総合的推進と、障害福祉サービス等の必要見込量とその確保のための方策を策定するためには、障害者等の生活実態と意向を明らかにするための基礎調査が不可欠です。

この調査は、障害者基本法第11条第3項に規定する障害者計画及び障害者総合支援法第88条に規定する障害福祉計画の次期計画の策定に係る必要なデータを収集し、障害者施策の一層の推進を図ることを目的として実施しました。

(2) アンケート調査の実施方法

①調査の対象

千葉市に住所のある方で、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、自立支援医療（精神通院医療）を利用している方の中から対象者を選定しました。

対象者	分類	母数	対象者数	対象者の選定方法
Ⅰ 在宅の方 (39,091 名)	身体障害	30,574	1,500	身体障害者手帳をお持ちの18歳以上の方から抽出
	知的障害	3,599	500	療育手帳をお持ちの18歳以上の方から抽出
	精神障害	4,918	500	精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、自立支援医療（精神通院医療）を利用している方から抽出
Ⅱ 施設に入 所している 方 (761 名)	市内施設	397	397	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちで、千葉市から障害者施設に入所している方（全数）
	県内施設	320	320	
	県外施設	44	44	
Ⅲ 18 歳未満 の方と保護 者の方 (2,919 名)	身体障害	1,161	500	身体障害者手帳をお持ちの18歳未満の方から抽出
	知的障害	1,758	500	療育手帳をお持ちの18歳未満の方から抽出
Ⅳ 発達障害のある方(107 名)		107	107	精神障害者保健福祉手帳または自立支援医療（精神通院医療）受給者証をお持ちの18歳以上の方のうち、発達障害の類型に属する病名での申請がある方（全数）

対象者		母数	対象者数	対象者の選定方法
Ⅴ 発達障害のある 18 歳未満の方とその保護者の方(47名)		26	26	精神障害者保健福祉手帳または自立支援医療（精神通院医療）受給者証をお持ちの 18 歳未満の方のうち、発達障害の類型に属する病名での申請がある方（全数）
		21	21	千葉市療育センターまたは千葉市大宮学園に通っている方のうち、発達障害の類型に属する病名での申請がある方に対して、一定期間窓口配布
Ⅵ 一般市民 (3,776 名)		3,776	3,776	千葉市インターネットモニターとして登録がある方（全数）

②調査の方法

「在宅の方（18 歳以上）」、「18 歳未満の方と保護者の方」、「発達障害のある方」、「18 歳未満の発達障害のある方と保護者の方」を対象とした調査では、対象の方に郵送（一部窓口配布）で調査票を配布し、無記名で郵送回収しました。

「施設に入所している方」を対象とした調査では、対象の方が入所している施設を通じて調査票を配布し、無記名で郵送回収しました。

「一般市民」を対象とした調査では、市のインターネットモニターに登録している方を対象に実施しました。

③調査期間

平成 26 年 1 月 17 日～1 月 31 日の期間に実施しました。なお、インターネット調査は、平成 26 年 2 月 1 日～2 月 7 日までの実施です。

④配布・回収状況

調査票の種類	配布数	有効回収数	有効回収率
I 在宅の方	2,500	1,300	52.0%
II 施設に入所している方	761	598	78.6%
III 18歳未満の方と保護者の方	1,000	461	46.1%
IV 発達障害のある方	107	53	49.5%
V 発達障害の18歳未満の方とその保護者の方	47	25	53.2%
VI 一般市民(インターネット調査)	3,776	1,307	34.6%

(3) ヒアリング調査の実施方法

①調査の対象

千葉市内の障害者団体 14 団体を対象としました。(順不同)

団体の種類	団 体 名
当事者団体	①千葉市視覚障害者協会 ②千葉市聴覚障害者協会 ③千葉市中途失聴・難聴者協会 ④千葉市身体障害者福祉会 ⑤千葉市オストミー協会 ⑥千葉市腎臓病患者友の会
障害児者の親の会	①千葉市肢体不自由児者父母の会 ②千葉市ことばを育てる会 ③千葉市重症心身障害児(者)を守る会 ④千葉市手をつなぐ育成会 ⑤千葉市自閉症協会
家族会・事業者 団体連絡会	①特定非営利活動法人千家連 ②千葉市精神障害者共同作業所等連絡会 ③千葉市中心身障がい者ワークホーム等連絡会

②調査の方法

対象団体に事前に調査票を配布し、当日代表の方に会場に来ていただいて、調査票の記入に基づいてお話を伺う形で実施しました。

③調査期間

平成 26 年 2 月 10 日～2 月 19 日の期間に実施しました。

調査日	団 体 名
2月10日	・ 千葉市腎臓病患者友の会 ・ 千葉市中途失聴・難聴者協会
2月12日	・ 千葉市身体障害者福祉会 ・ 千葉市視覚障害者協会 ・ 千葉市聴覚障害者協会
2月13日	・ 特定非営利活動法人千家連 ・ 千葉市心身障がい者ワークホーム等連絡会
2月14日	・ 千葉市オストミー協会 ・ 千葉市自閉症協会 ・ 千葉市重症心身障害児（者）を守る会 ・ 千葉市肢体不自由児者父母の会 ・ 千葉市手をつなぐ育成会
2月19日	・ 千葉市ことばを育てる会 ・ 千葉市精神障害者共同作業所等連絡会

◆調査結果の利用にあたって

- (1) 集計した数値（％）は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。このため、質問に対する回答の選択肢が1つだけの場合、選択肢の数値（％）をすべて合計しても、100.0%にならない場合があります。また、説明文の中で複数の選択肢を合わせた割合を記載している場合、実数から再計算した上で四捨五入しているため、各選択肢の割合をそのまま合計した値と若干異なっています。
- (2) 回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- (3) 障害種別ごとの集計結果において、2つ以上障害のある方は、それぞれの集計結果に重複して入っています。
- (4) 掲載の都合上、選択肢の文言については一部省略している場合があります。

2 アンケート調査結果の概要

1 在宅の方（18 歳以上）を対象とした調査

（1）ご本人について

◆年齢 「75 歳以上」が最も多い（24.2%）

身体障害、難病のある方では、65 歳以上の割合がそれぞれ 66.7%、54.5%、平均年齢が 66.8 歳、63.1 歳となっています。また、知的障害、精神障害のある方では、40 歳未満の割合がそれぞれ 64.9%、37.2%、平均年齢がそれぞれ 34.6 歳、45.8 歳となっています。

（2）医療機関への受診状況について

◆医療機関への受診状況 「1 年間受診したが、入院はしていない」が最も多い（46.6%）

「1 年間受診したが、入院はしていない」は、精神障害、難病のある方ではそれぞれ 67.8%、58.4%と特に多くなっています。一方、知的障害のある方では、「障害や疾病では受診していない」「1 年間継続して受診したが、入院はしていない」がそれぞれ 34.7%、34.3%と多くなっています。

◆通院している病院 「市内の病院（歩いていけない場所）」が最も多い（57.6%）

いずれの障害区分においても、「市内の病院（歩いていけない場所）」「市内の病院（歩いて行ける場所）」の順に多く、また市内への通院が 80%以上となっており、市内に多様な医療機関が充実していることがうかがえます。

（3）ご家族や介助者について

◆主な介助者の年齢 「70 歳以上」が最も多い（37.0%）

知的障害のある方では、「50 代」が最も多い（35.5%）

「70 歳以上」に次いで、「60 代」が 25.9%、「50 代」が 18.9%となっています。

◆主な介助者の介助継続年数 「1 年以上～5 年未満」「5 年以上～10 年未満」が多い（それぞれ 18.4%、16.8%）

知的障害のある方では、「30 年以上」が最も多い（30.3%）

知的障害のある方では、20 年以上が 67.7%である一方、身体障害、難病のある方では、10 年未満がそれぞれ 48.6%、44.5%と、障害により介助継続年数が大きく異なることが特徴です。

◆主な介助者が困っていること 「介護者の高齢化により不安がある」が最も多い (44.7%)

「介護者の高齢化により不安がある」の他には、身体障害、難病のある方では「介護者自身の健康に不安がある」がそれぞれ 36.7%、38.6%、知的障害のある方では「緊急時の対応に不安がある」が 37.4%、精神障害のある方では「精神的な負担が大きい」が 41.7%と多くなっています。

(4) 相談や情報入手について

◆日常生活で困っていること 「将来の生活に不安を感じている」が最も多い (45.5%)

「将来の生活に不安を感じている」と回答した人の割合は、知的障害、精神障害のある方では、それぞれ 59.4%、61.6%と特に多くなっています。

◆困ったときの相談先 「家族・親族」が最も多い (70.2%)

「家族・親族」の他には、身体障害、精神障害、難病のある方では「医療関係者（医師・看護師など）」がそれぞれ 26.6%、40.8%、32.2%、知的障害のある方では「施設等の職員」が 44.2%と多くなっています。

(5) 暮らしについて

◆外出の頻度 「週4回以上」が最も多い (45.0%)

週1回以上外出する方は全体の 79.1%となっています。これを障害別にみると、知的障害のある方は「週4回以上」が 69.7%と多くなっているのが特徴です。

◆外出の目的 「医療機関への受診」「買い物」が多い(それぞれ 53.5%、52.6%)

知的障害のある方は「通勤・通学・通所」が最も多い (73.3%)

精神障害、難病の方では「医療機関への受診」がそれぞれ 64.3%、65.5%と多くなっています。

◆移動手段で困っていること 「特に困っていることはない」が最も多い

困っていることは、鉄道では「駅構内の移動・乗り換えが大変」が 31.5%、路線バスでは「乗り降りが大変」が 22.8%、モノレールでは「駅構内の移動・乗り換えが大変」が 14.2%となっています。

◆外出するときに困っていること 「特に困っていることはない」が最も多い (37.5%)

困っていることは、障害種別に見ると、身体障害、難病のある方では「歩道・通路の段差」がそれぞれ31.6%、31.0%、知的障害のある方では「トイレの利用」が18.3%、精神障害のある方では「周囲の目が気になる」が17.3%となっています。

(6) 災害対策について

◆災害時の避難 「避難できると思うが、自信がない」、「避難できない」が多い (それぞれ35.8%、31.5%)

知的障害のある方では「避難できない」が最も多い(49.8%)

「避難できると思うが、自信が無い」「避難できない」は、全体でも高い割合ですが、知的障害のある方ではそれぞれ29.5%、49.8%と非常に高く、避難について特に不安が大きいことがうかがえます。

◆災害時の支援者 「一緒に住んでいる家族」が最も多い (70.5%)

91.6%の方が支援してくれる人がいると回答しています。一方、「いない」に回答した方は、全体では6.2%ですが、精神障害のある方では20.4%と特に多くなっています。

◆災害時に不安に思うこと 「薬や医療的なケアが確保できるか不安」が最も多い (53.4%)

知的障害のある方では「避難所で一般市民と一緒に生活できるか不安」が最も多い(49.4%)

精神障害、難病のある方では「薬や医療的なケアが確保できるか不安」が特に多く、それぞれ71.8%、65.5%となっています。

◆災害発生に備えた物資の備蓄 「備蓄していない」が最も多い (37.2%)

前問(問39)で「薬や医療的なケアが確保できるか不安」と回答した方のうち、「備蓄していない」と回答した方は、全体では33.6%、特に不安な方が多かった精神障害、難病のある方についてもそれぞれ41.5%、28.1%となっています。

(7) 日中活動・就労について

◆仕事をする上で困っていること 「特に困っていることはない」が最も多い (34.6%)

全体では「特に困っていることはない」に次いで「給与・工賃などの収入が少ない」(27.3%)となっていますが、精神障害のある方では「精神的な負担が大きい」(38.7%)、「職場の人間関係」(30.6%)の順に多くなっています。

なお、働かない理由としては「障害や病気が重いから」「働く自信がないから」が多くなっています。

◆一般就労のために必要なこと 「障害の特性に合った職業・雇用の拡大」が最も多い (40.3%)

18～39歳では、「障害の特性に合った職業・雇用の拡大」が56.7%、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が52.6%と特に多くなっています。

(8) 将来について

◆将来の暮らし方の希望 「自宅で家族と暮らしたい」が最も多い (53.9%)

「自宅で家族と暮らしたい」「わからない」の他には、知的障害のある方では「障害者入所施設に入りたい」が13.5%、精神障害のある方では「自宅でひとり暮らしをしたい」が14.5%と多くなっています。

(9) 障害のある人に対する理解度について

◆地域で生活していて感じる差別の有無 「ほとんど感じない」が最も多い (36.1%)

知的障害のある方では「時々感じる」が多い(26.7%)

障害種別により差別の有無の感じ方が異なることがうかがえます。

◆障害のある人に対する市民の理解度 「あまり理解されていない」が最も多い (34.1%)

「よく理解されている」「おおむね理解されている」は28.0%、「あまり理解されていない」「まったく理解されていない」は40.3%となっています。

◆選挙投票の頻度 「毎行っている」が最も多い（48.7%）

全体では「毎行っている」が48.7%、「全く行っていない」が19.4%ですが、知的障害のある方ではそれぞれ25.1%、38.2%と、障害種別により差があることが特徴となっています。なお、選挙に行かない理由としては、「投票所で、投票用紙の記入や投票箱に投票することが困難」が多くなっています。

（10）サービスの利用について

◆サービスの利用状況・利用意向 現在の利用状況と比べ、潜在ニーズが非常に大きい

全体的に、現在の利用状況に対して、利用希望が多くなっています。なお、サービスを利用する上で困っていることについては、「サービスの内容や使い方がよくわからない」が多くなっています。

（11）収入や利用者負担について

◆利用者負担の負担感 「あまり負担に感じない」が最も多い（27.2%）

次いで多い「やや負担に感じる」も24.0%となっています。

（12）市の障害者施策について

◆満足度 「どちらとも言えない」が最も多い（41.2%）

「非常に満足」「やや満足」は24.4%、「やや不満」「非常に不満」は19.6%となっています。

2 施設に入所している方を対象とした調査

(1) ご本人について

◆年齢 「40 歳代」が最も多い (33.9%)

30 歳代と 40 歳代が特に多く、合わせて 64.0%を占めています。障害種別ではほとんど差はありません。

(2) 医療機関への受診状況について

◆医療機関への受診状況 「1 年間継続して受診したが、入院はしていない」が最も多い (30.6%)

精神障害のある方では 45.1%と特に多くなっています。

(3) 施設への入所について

◆施設のある地域 「千葉市内」が最も多い (51.2%)

身体障害のある方では 65.3%と特に多くなっています。全体では、県外への施設に入所している方は 5.2%と低く、ほとんどが県内施設であることが特徴です。

◆施設に入所している期間 「10～15 年未満」が最も多い (29.3%)

10 年以上入所している方が全体の 69.9%となっています。

(4) 相談や情報入手について

◆困ったときの相談先 「施設の職員」が最も多い (83.8%)

「施設の職員」83.8%と「家族・親族」60.5%が突出して多くなっています。

(5) 日常生活（施設での生活）について

◆日中の過ごし方 「入所している施設で作業や訓練をしている」が最も多い (60.5%)

「他の施設に通って作業や訓練をしている」方は 0.7%であるため、ほとんどの利用者が入所している施設で過ごしているのが特徴です。

◆施設生活の満足度 「やや満足している」が最も多い (31.6%)

「満足している」「やや満足」が 59.2%となっています。これを障害種別に見ると、精神障害のある方では 51%、難病のある方では 48%と若干低くなっていることが特徴です。

◆自宅に帰る頻度 「10 回以上」が最も多い (44.5%)

若年層ほど「10 回以上」と回答した人の割合が高い傾向にあります。また、50 歳代からは「この 1 年間は帰っていない」が急激に多くなっています。

◆移動手段で困っていること 鉄道利用では「駅構内の移動・乗り換えが大変」、路線バス利用及びモノレール利用では「特に困っていることはない」が多い

鉄道利用では「駅構内の移動・乗り換えが大変」が 33.3%と最も多くなっています。路線バス利用では「特に困っていることはない」が 25.5%、「乗り降りが大変」が 24.5%、モノレール利用では「特に困っていることはない」が 20.6%、「駅構内の移動・乗り換えが大変」が 20.0%となっています。

(6) 災害対策について

◆災害時の避難 「避難できない」が最も多い (85.5%)

ひとりでは「避難できない」が 85.5%と突出して多く、在宅の方(問 35)の回答(31.5%)と比較してもやはり突出して多いことが特徴です。

◆災害時の支援者 「施設の職員」が最も多い (95.0%)

「いない」は 1.2%となっており、在宅の方(問 37)の回答(6.2%)とは大きく傾向が異なります。

◆災害時に不安に思うこと 「自分では助けを呼ぶことができない」が最も多い (68.7%)

「自分では助けを呼ぶことができない」が、全障害種別において最も多く、なかでも難病の方では 92.0%と特に多くなっています。

◆災害発生に備えた物資の備蓄 「備蓄していない」が最も多い (37.6%)

精神障害のある方では「1～3 日分くらいの備蓄がある」が最も多い (43.1%)

知的障害のある方では、「備蓄していない」が 31.8%と最も多くなっていますが、「1～3 日分くらいの備蓄がある」も 30.4%と多くなっています。なお、前問(問 33)で「薬や医療的なケアが確保できるか不安」と回答した方のうち、「備蓄していない」と回答した方は、全体で 34.7%、特に不安な方が多かった精神障害、難病のある方については 29.6%、56.3%となっています。

(7) 将来について

◆将来の暮らし方の希望 「現在入所している施設で生活したい」が最も多い (47.5%)

年齢別に見ると、「現在入所している施設で生活したい」という回答は、年齢が上がるにつれて多くなっていることが特徴です。

◆施設で暮らしたい理由 「施設にいたほうが安心できるから」が最も多い (72.9%)

次いで「自宅での家族の受け入れ体制が整っていないから」が41.2%となっています。

(8) 障害のある人に対する理解度について

◆日常生活の中で感じる差別の有無 「わからない」が最も多い (37.0%)

在宅の方と違い、障害による大きな差が見られないことが特徴です。

「頻繁に感じる」「時々感じる」は34.3%、「あまり感じない」「ほとんど感じない」は22.5%となっています。

◆障害のある人に対する市民の理解度 「あまり理解されていない」が最も多い (38.0%)

「あまり理解されていない」「まったく理解されていない」は41.8%、「よく理解されている」「おおむね理解されている」は18.4%となっています。

◆選挙投票の頻度 「全く行っていない」が最も多い (57.0%)

また、選挙に行かない理由は、「投票所で、投票用紙の記入や投票箱に投票することが困難」が39.0%と最も多くなっています。

(9) サービス利用について

◆成年後見制度 「わからない」が最も多い (49.0%)

「現在利用しており、今後も利用を続けたい」「現在は利用していないが、今後利用したい」は39.8%となっています。

(10) 収入や利用者負担について

◆利用者の負担感 「あまり負担に感じない」が最も多い (32.9%)

次いで多い「やや負担に感じる」も30.8%となっています。

(11) 市の障害者施策について

◆満足度 「どちらとも言えない」が最も多い (45.7%)

「非常に満足」「やや満足」は 19.5%、「やや不満」「非常に不満」は 26.8%となっています。

3 18才未満の方と保護者の方を対象とした調査

(1) ご本人について

◆年齢 「9～11歳」が最も多い (24.1%)

9歳以上の方が 63.5%となっています。

(2) 医療機関への受診状況について

◆医療機関への受診状況 「1年間継続して受診したが、入院はしていない」が最も多い (35.1%)

身体障害、難病のある方では、それぞれ 47.9%、48.5%と特に多くなっています。

◆通院している病院 「市内の病院(歩いていけない場所)」が最も多い (68.1%)

「市内(歩いていける場所・歩いていけない場所)」が、全体では 87.6%となっています。数値が最も低い精神障害のある方でも 71.4%、その他の障害種別については 90%前後となっていることから、市内に多様な医療機関が充実していることがうかがえます。

(3) ご家族や介助者について

◆主な介助者の年齢 「40代」が最も多い (59.1%)

「40代」が 59.1%と最も多く、次いで「30代」が 28.8%となっています。

◆主な介助者の介助継続年数 「5年以上～10年未満」が最も多い (40.1%)

次いで「10年以上～15年未満」が 31.4%となっています。

◆主な介助者が困っていること 「緊急時の対応に不安がある」が最も多い (50.7%)

次いで「精神的な負担が大きい」が 38.0%、「代わりに介助を頼める人がいない」が 36.0%となっています。

(4) 相談や情報入手について

◆日常生活で困っていること 「将来の生活に不安を感じている」が最も多い (66.8%)

精神障害のある方では 85.7%と特に多くなっていることが特徴です。

◆困ったときの相談先 「家族・親族」が最も多い (80.7%)

次いで「学校の職員」が 43.2%となっています。

◆福祉情報の入手先 「学校のお知らせ」、「ちば市政だより」が多い (それぞれ 39.7%、37.7%)

「学校のお知らせ」と「ちば市政だより」が突出して多くなっています。

(5) 暮らしについて

◆外出の頻度 「週 4 日以上」が最も多い (88.3%)

すべての障害種別において「週 4 日以上」が 80%以上となっています。

◆外出の目的 「通勤・通学・通所」が最も多い (94.6%)

その他には、身体障害、難病のある方では「医療機関への受診」がそれぞれ 52.5%、59.1%、知的障害のある方では「買い物」が 50.5%と多くなっています。

◆移動手段で困っていること 「特に困っていることはない」がおおむね多い

「特に困っていることはない」は、路線バス・モノレールについては最も多く、鉄道についても 2 番目に多い回答となっています。鉄道の利用で最も困っていることは「駅構内の移動・乗り換えが大変」となっています。

◆外出するときに困っていること 「特に困っていることはない」、「トイレの利用」が多い (それぞれ 33.4%、33.0%)

「トイレの利用」については、身体障害のある方では 44.6%、難病の方では 43.9%となっています。また、外出先のトイレで困ることについては、「多目的トイレの数が少ない」が 63.8%と最も多くなっています。

(6) 災害対策について

◆災害時の避難 「避難できない」が最も多い (70.9%)

「避難できると思うが、自信がない」「避難できない」は全体の88.5%となっています。

◆災害時の支援者 「一緒に住んでいる家族」が最も多い (93.3%)

支援をする方が「いない」は全体で3.5%となっています。

◆災害時に不安に思うこと 「避難所で一般市民と一緒に生活できるか不安」が最も多い (49.0%)

身体障害のある方では「避難所の設備が障害に対応しているか不安」、難病の方では「薬や医療的なケアが確保できるか不安」が最も多い(それぞれ57.9%、66.7%)

精神障害のある方では、「避難所で一般市民と一緒に生活できるか不安」と「薬や医療的なケアが確保できるか不安」がともに85.7%となっています。

◆災害発生に備えた物資の備蓄 「1～3日分くらいの備蓄がある」が最も多い (43.0%)

「備蓄していない」は全体の31.0%となっています。前問(問39)で「薬や医療的なケアが確保できるか不安」と回答した方のうち、「備蓄していない」と回答した方は、全体で19.6%となっています。

(7) 療育・保育について

◆障害に気づいた時期 「産まれたとき」が最も多い (25.6%)

障害に気づいたきっかけについても、「産まれてまもなく病院で知らされた」が25.4%と最も多くなっています。

◆療育・保育について困っていること 「本人の成長に不安がある」が最も多い (58.4%)

「0～2歳」「3～5歳」では、「本人の成長に不安がある」の他には、「療育・保育に関する情報が少ない」がそれぞれ57.1%、66.5%と多くなっています。

(8) 学校・教育について

◆学校・教育について困っていること 「学校終了後の進路に不安がある」が最も多い (65.1%)

知的障害のある方では、「学校終了後の進路に不安がある」が72.7%と特に多くなっています。

◆放課後や夏休みの過ごし方 「放課後等デイサービスを利用したい」が最も多い (45.6%)

身体障害、精神障害、難病のある方では「自宅で過ごしたい」が最も多い(それぞれ 43.5%、66.7%、41.1%)

知的障害のある方では、「放課後等デイサービスを利用したい」が 55.8%と特に多くなっています。

◆高等学校卒業後の進路 「障害福祉サービス事業所（通所施設など）に通いたい」が最も多い (46.6%)

知的障害の方では「障害福祉サービス事業所（通所施設など）に通いたい」が 56.8%と特に多くなっています。

(9) 日中活動・就労について

(対象者が極端に少ないため、省略)

(10) 将来について

◆将来の暮らし方の希望 「自宅で家族と暮らしたい」が最も多い (56.4%)

次いで「高齢者の入所施設に入りたい（特別養護老人ホームなど）」が 19.5%となっています。

(11) 障害のある人に対する理解度について

◆地域で生活していて感じる差別の有無 「時々感じる」が最も多い (38.6%)

「頻繁に感じる」「時々感じる」は 46.4%、「あまり感じない」「ほとんど感じない」は 38.4%となっています。

◆障害のある人に対する市民の理解度 「あまり理解されていない」が最も多い (55.3%)

「あまり理解されていない」「まったく理解されていない」は 67.4%、「よく理解されている」「おおむね理解されている」は 14.1%となっています。

(12) サービスの利用について

◆サービスの利用状況・利用意向 全体として、現在の利用状況より潜在ニーズが極端に大きい

全体的に、現在の利用状況に対して、利用希望が多くなっています。

(13) 収入や利用者負担について

◆利用者負担の負担感 「やや負担に感じる」が最も多い(47.1%)

「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」は 62.4%、「あまり負担に感じない」は 25.5%となっています。

(14) 市の障害者施策について

◆満足度 「やや不満」が最も多い(33.0%)

「やや不満」「非常に不満」は 45.1%、「非常に満足」「やや満足」は 20.2%となっています。

4 発達障害のある方を対象とした調査

(1) ご本人について

◆性別・年齢 性別は「男性」、年齢は「20～29 歳」が最も多い(それぞれ 66.0%、49.1%)

年齢については、40 歳未満が 81.2%となっています。

(2) 医療機関への受診状況について

◆医療機関への受診状況 「1 年間継続して受診したが、入院はしていない」が最も多い(71.7%)

次いで「障害や疾病では受診していない」「一時的に受診したが、入院はしていない」がそれぞれ 9.4%となっています。

◆通院している病院 「市内の病院(歩いていけない場所)」が最も多い(52.8%)

市外の病院については、「県内の市町村(千葉市以外)」が 20.8%、「東京都内」が 15.1%となっています。

(3) ご家族や介助者について

◆介助者の年齢 「50代」が最も多い(45.8%)

次いで「60代」が29.2%となっています。

◆介助者の介助継続年数 「5年以上～10年未満」が最も多い(25.0%)

次いで「20年以上～25年未満」が16.7%となっています。

◆主な介助者が困っていること 「介助者の高齢化により不安がある」が最も多い(62.5%)

次いで「精神的な負担が大きい」が58.3%、「経済的な負担が大きい」が45.8%となっています。

(4) 相談や情報入手について

◆日常生活で困っていること 「将来の生活に不安を感じている」が最も多い(84.9%)

次いで「収入や生活費に不安を感じている」が58.5%となっています。

◆困ったときの相談先 「医療関係者(医師・看護師など)」が最も多い(73.6%)

次いで「家族・親族」が66.0%、「発達障害者支援センター」が52.8%となっています。

◆福祉情報の入手先 「医療機関」が最も多い(47.2%)

次いで、在宅(問23)で最も多かった「ちば市政だより」が30.2%となっています。

(5) 暮らしについて

◆外出の頻度 「週4日以上」が最も多い(60.4%)

週1回以上外出する方は全体の81.2%となっています。

◆外出の目的 「医療機関への受診」が最も多い(71.7%)

次いで「買い物」が66.0%となっています。

(6) 災害対策について

◆災害時の避難 「避難できる」が最も多い (47.2%)

「避難できると思うが、自信がない」「避難できない」が全体の52.9%となっています。

◆災害時の支援者 「一緒に住んでいる家族」が最も多い (90.6%)

支援者が「いない」は全体の3.8%となっています。

◆災害時に不安に思うこと 「薬や医療ケアが確保できるか不安」、「避難所で一般市民と一緒に生活できるか不安」が多い

「薬や医療ケアが確保できるか不安」が64.2%、「避難所で一般市民と一緒に生活できるか不安」が62.3%となっています。

◆災害発生に備えた物資の備蓄 「備蓄していない」が最も多い (50.9%)

次いで「1～3日分くらいの備蓄がある」が28.3%となっています。

(7) 日中活動・就労について

◆平日の日中の主な過ごし方 「パート・アルバイトなどで働いている」が最も多い (20.8%)

次いで「自宅で家事や手伝いをしている」が15.1%となっています。一方、「特に何もしてない」は11.3%となっています。

◆働いていない理由 「人間関係がうまくいか不安があるから」が最も多い (50.0%)

次いで「障害や病気が重いから」が38.9%、「働く自信がないから」が33.3%となっています。

◆一般就労のために必要なこと 「障害の特性に合った職業・雇用の拡大」が最も多い (79.2%)

次いで「職場理解を促進するための職場への働きかけ」が69.8%、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が67.9%となっています。

(8) 将来について

◆将来の暮らし方の希望 「自宅で家族と暮らしたい」が最も多い (37.7%)

次いで「わからない」が24.5%、「自宅でひとり暮らしをしたい」が20.8%となっています。

(9) 障害のある人への理解度について

◆地域で生活していて感じる差別の有無 「ほとんど感じない」が最も多い (32.1%)

「あまり感じない」「ほとんど感じない」は43.4%、「頻繁に感じる」「時々感じる」は32.0%となっています。

◆障害のある人に対する市民の理解度 「あまり理解されていない」が最も多い (41.5%)

「あまり理解されていない」「まったく理解されていない」は56.6%、「よく理解されている」「おおむね理解されている」は13.2%となっています。

(10) サービス利用について

◆サービスの利用状況・利用意向 現在の利用状況と比べ、潜在ニーズが非常に大きい

全体的に、現在の利用状況に対して、利用希望が多くなっています。

(11) 収入や利用者負担について

◆利用者負担の負担感 「あまり負担に感じない」が最も多い (50.0%)

「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」は26.7%となっています。

(12) 市の障害者施策について

◆満足度 「どちらとも言えない」が最も多い (62.3%)

「非常に満足」「やや満足」は20.8%、「やや不満」「非常に不満」は13.2%となっています。

5 発達障害の18歳未満の方とその保護者の方を対象とした調査

(1) ご本人について

◆年齢 「15歳以上」が最も多い(28.0%)

次いで「6～8歳」が24.0%、「3～5歳」が20.0%となっています。

(2) 医療機関への受診状況について

◆医療機関への受診状況 「1年間継続して受診したが、入院はしていない」が最も多い(40.0%)

次いで「障害や疾病では受診していない」「一時的に受診したが、入院はしていない」がともに24.0%となっています。

◆通院している病院 「市内の病院(歩いていけない場所)」が最も多い(52.0%)

市外の病院については、「県内の市町村(千葉市以外)」が20.0%、「東京都内」が8.0%となっています。

(3) ご家族や介助者について

◆主な介助者の年齢 「40代」が最も多い(44.4%)

次いで「30代」が38.9%となっています。

◆主な介助者の介助継続年数 「5年以上～10年未満」が最も多い(38.9%)

次いで「10年以上～15年未満」が27.8%となっています。

◆主な介助者が困っていること 「精神的な負担が大きい」が最も多い(55.6%)

次いで「緊急時の対応に不安がある」「休養や息抜きの時間がない」がともに44.4%となっています。

(4) 相談や情報入手について

◆日常生活で困っていること 「将来の生活に不安を感じている」が最も多い(60.0%)

次いで「外出するのに支障がある」が32.0%となっています。

◆困ったときの相談先 「家族・親族」が最も多い (64.0%)

次いで「友人・知人」が 32.0%となっています。なお、「発達障害者支援センター」は 24.0%となっています。

◆福祉情報の入手先 「ちば市政だより」が最も多い (40.0%)

次いで「医療機関」が 32.0%となっています。

(5) 暮らしについて

◆外出の頻度 「週4日以上」が最も多い (84.0%)

週1回以上外出する方が全体の 92.0%となっています。

◆外出の目的 「通勤・通学・通所」が最も多い (92.0%)

次いで「買い物」が 32.0%となっています。

(6) 災害対策について

◆災害時の避難 「避難できない」が最も多い (48.0%)

「避難できると思うが、自信がない」「避難できない」は 72.0%となっています。

◆災害時の支援者 「一緒に住んでいる家族」が最も多い (96.0%)

支援者が「いない」は 4.0%となっています。

◆災害時に不安に思うこと 「避難所で一般市民と一緒に生活できるか不安」が最も多い (56.0%)

次いで「薬や医療ケアが確保できるか不安」が 44.0%となっています。

◆災害発生に備えた物資の蓄積 「1～3日分くらいの備蓄がある」が最も多い (40.0%)

「備蓄していない」は 36.0%となっています。

(7) 療育・保育について

◆障害に気づいたきっかけ 「家族や周りの人が気づいた」が最も多い (56.0%)

障害に気づいた時期は「2歳」が 28.0%と最も多くなっています。

◆療育・保育について困っていること 「本人の成長に不安がある」が最も多い (76.0%)

次いで「友だちとの関係づくりがうまくできない」が56.0%、「療育・保育に関する情報が少ない」が52.0%となっています。

(8) 学校・教育について

◆学校・教育について困っていること 「学校終了後の進路に不安がある」が最も多い (42.1%)

次いで「友だちとの関係づくりがうまくできない」が31.6%となっています。

(9) 将来について

◆将来の暮らし方の希望 「わからない」が最も多い (32.0%)

次いで「自宅で家族と暮らしたい」が24.0%、「自宅でひとり暮らしをしたい」が16.0%となっています。

(10) 障害のある人の理解度について

◆地域で生活していて感じる差別の有無 「時々感じる」が最も多い (52.0%)

「頻繁に感じる」「時々感じる」は60.0%、「あまり感じない」「ほとんど感じない」は28.0%となっています。

◆障害のある人に対する市民の理解度 「あまり理解されていない」が最も多い (52.0%)

「あまり理解されていない」「まったく理解されていない」は84.0%、「よく理解されている」「おおむね理解されている」は12.0%となっています。

(11) サービス利用について

◆サービスの利用状況・利用意向 現在の利用状況と比べ、潜在ニーズが非常に大きい

全体的に、現在の利用の状況に対して、利用希望が多くなっています。

(12) 収入や利用者負担について

◆利用者負担の負担感 「あまり負担に感じない」が最も多い (38.9%)

「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」は 38.9%となっています。

(13) 市の障害者施策について

◆満足度 「どちらとも言えない」が最も多い (36.0%)

「非常に満足」「やや満足」は 4.0%、「やや不満」「非常に不満」は 56.0%となっています。

6 インターネット調査

(1) 障害者との交流経験について

◆身近な障害者の存在・障害者との交流経験 「身近にはいない」が最も多い (39.1%)

10 歳代、20 歳代、50 歳代では「学校や職場にいる (いた)」が最も多い (それぞれ 44.4%、38.9%、35.8%)

60 歳では「身近にはいない」が 46.6%と特に高くなっています。

(2) 障害に関する認知度

◆障害に関する認知度 「身体障害」が最も多い (91.8%)

次いで「知的障害」は 86.9%、「発達障害」は 78.6%、「精神障害」は 71.8%、「内部障害」は 45.1%となっています。

(3) 障害者福祉に対する関心

◆障害者福祉に対する関心 「少し関心がある」が最も多い (54.7%)

障害者福祉に対する関心が「ある」と回答された方の割合は、年代が上がるにつれて高くなる傾向があります。

(4) 障害への理解を深めるために必要なこと

◆障害への理解を深めるために必要なこと 「学校での福祉教育の充実」が最も多い (67.3%)

障害者福祉の関心別にみると、「(障害者福祉に関心が) ある」方は、「ない」人と比べて「障害のある方との交流」や「ボランティア活動の呼びかけ」を重視し、「少しある」方は「学校での福祉教育の充実」を重視しています。

また、身近に障害者がいるかどうかでみると、「いる」人と「いない」人で割合に差があ

る項目は、「障害のある方との交流」となっているのが特徴です。

(5) ノーマライゼーションの認知度

◆ノーマライゼーションの認知度 「聞いたことはない」が最も多い(46.2%)

「聞いたことはあるが内容はよくわからない」「聞いたことはない」が80.0%となっています。

(6) 地域社会における障害者への差別、偏見、配慮のなさの有無

◆地域生活における障害者への差別、偏見、配慮のなさの有無 「時々感じる」が最も多い(47.2%)

「よく感じる」「時々感じる」は63.1%、「あまり感じない」「ほとんど感じない」は28.4%となっています。

(7) 障害者への差別、偏見、配慮のなさを感じる場面

◆障害者への差別、偏見、配慮のなさを感じる場面 「移動手段(交通機関等)」「雇用や就労」が多い(それぞれ68.4%、65.3%)

性別でみると、女性の方は「教育」が37.1%、「他の人とのコミュニケーション」が47.9%の2項目が、男性より10ポイント以上多くなっています。

(8) 障害者施策の進捗度

◆障害者施策の進捗度 「不足」が最も多い(43.5%)

「充実している」は4.5%となっています。

(9) 障害のある方が地域で生活していくために必要なこと

◆障害のある方が地域で生活していくために必要なこと 「障害に対する理解」が最も多い(69.9%)

次いで「就労支援」は52.6%、「道路・交通・建物のバリアフリー化」は51.4%となっています。

3 団体ヒアリング調査結果の概要

1 当事者団体

(1) 団体について

◆活動の内容～会員の活動、相談、社会参加のための支援活動

会員の生活を支援するため、行事やイベント等の開催、旅行などを実施しています。また、市や県からの各種の委託事業を受託して、専門職の育成を行っています。

◆団体としての課題～会員の高齢化と、厳しい収支状況

会員の高齢化や会員数の減少が進んでいます。その理由としては、新規の障害者などの情報入手が個人情報保護法による制約で困難なことや、若い方は収入が少なく、自身の生活で精一杯のため団体活動に携わることができないことが挙げられます。

◆地域の中で果たすべき役割について～市民への周知と、障害者の地域への参加を支援

障害者が地域の中で生活できるよう、講習会の開催や、障害特性に応じたマークの普及等を行っています。また、障害者の地域への参加を促進するため、イベントや防災訓練等への参加を実施しています。

(2) 相談支援体制について

◆利用することが多い相談機関～団体の上部機関を利用するケースが多い。

上部団体を有する団体は、上部団体に相談を行っています。上部団体を有しない団体については、保健福祉センターや障害者相談センターなど、相談先が異なることが特徴です。

◆会員の方への情報提供～会報などでの周知が多い

会員への情報提供については、入会時の案内書類に記載したり、会報を活用して周知を行っています。また、会員の電話番号等を把握している団体は、電話での連絡を行っています。

◆相談支援に関する意見～さらなる情報提供を求める声もある

相談支援に関しては、さらなる情報提供を求める意見もありました。また、制度が変更された際には、周知を図ってほしいとの意見もありました。

(3) サービス利用について

◆会員の方が利用することが多いサービス

タクシー券、ガソリン券などの意見がありました。

- 医療・・・透析が医療機関の都合で、自由な時間での対応が困難である。
- 外出・・・ガソリンの値上げにより、給油できる量が減った。
- 認定基準・・・国の認定基準では、聴覚の認定が厳しく手帳がもらえない。
- 日常生活用具、補装具
・・・家族の有無により、支給内容が異なる。
- 駐車場・・・「きぼーる」で駐車料金が発生する。

◆今後充実してほしいサービス～移動手段や視覚・聴覚向けサービスが多い

会員の方が利用するサービスは、移動手段や視覚・聴覚向けサービスなどの意見がありました。

主なサービスに関する意見を列記します。

- 移動手段・・・タクシー券よりガソリン券の方が良い。
- 視覚・聴覚・・・地域活動支援センターの充実や、聴覚障害者への支援機器の整備。

(4) 療育・教育、就労について

◆療育・教育や学校生活～パンフレットを作成して支援している

18歳未満の方向けのパンフレットを作成しています。

先生により技量の差がある、障害の重さにより対応に差があるなどの意見がありました。

◆一般就労のために必要なこと～障害者への理解促進

一般就労を図るため、障害者への理解促進や、意思疎通の支援のための情報バリアフリー機器の導入等が必要との意見がありました。

(5) 障害に対する理解や差別について

◆就労やサービス提供関係の場面での意見が多い

同一の仕事でも給与差があるとか、介護施設の入居を断られる、医師が装具を知らず不適切な対応をするなどの意見がありました。

(6) バリアフリー化の取り組みについて

◆トイレについては運用面での意見が多い

トイレについては、適切な使い方など、運用に関する意見が多くありました。また、障

害者のトイレ利用に関する理解を進めてほしいという意見がありました。

（７）防災体制の整備について

◆防災体制は、トイレ、避難所、地域とのかかわり等の意見が多い

防災面では、ストーマ装具等をつけている場合の対応、避難所における専門職員の配置、避難所で生活できない人にも物資を配給してほしい等の意見がありました。地域との関わりでは、地域と連携した防災訓練等の開催などの意見がありました。

（８）市の障害福祉施策について

団体の財政的な支援等に関する意見がありました。

２ 障害児者の親の会

（１）団体について

◆活動の内容～会員（子ども）や、その保護者への活動が主

会員（子ども）への支援に係る活動の他に、子どもを支援する保護者向けの活動を実施しています。会員数がいずれも 100 人を超えており、子どもと保護者でさまざまな事業に参加するなどの、交流活動が主となっています。

◆団体としての課題～参加者数の減少と、個人情報保護法の壁

会員の減少が進んでいます。特に個人情報保護法による制約のため、新規会員の獲得が困難になっています。また、インターネット等の普及により、会に入らなくても情報入手が出来ると考える保護者が多くなっていることも一因です。

◆地域の中で果たすべき役割について～多様な活動による啓発

障害者が地域の中で生活できるよう、市民を対象とした多様な啓発活動、親同士の連携や支え合い、行政等への働きかけをおこなっています。

（２）相談支援体制について

◆利用することが多い相談機関～相談先は多岐にわたる

療育センター、相談支援事業所、学校、行政などと多岐にわたっています。

◆会員の方への情報提供～会報などでの周知が多い

会員の方への情報提供手段は、会報が多くなっています。

◆相談支援に関する意見～相談機関により、やや評価に差が見られる

相談機関による差が見られるとの意見がありました。また、相談機関に関する情報提供を求める意見もありました。

(3) サービス利用について

◆会員の方が利用することが多いサービス～移動支援など

移動支援やショートステイに関する意見がありました。特にショートステイは、床数が少ないとの意見がありました。

◆今後充実してほしいサービス～移動手段や預かりサービスが多い

移動手段や預かりサービスなどに関する意見がありました。

(4) 療育・教育、就労について

◆療育・教育や学校生活～教育現場に関するご意見が多い

医師が療育に貢献しているという意見がある一方、学校の教師に対しては、障害に関する理解や技量に差があるとの意見がありました。

◆一般就労のために必要なこと～ジョブコーチの配置や、仕事の進め方に関して

ジョブコーチの活用も含めた仕事の進め方についてのご意見がありました。

(5) 障害に対する理解や差別について

◆地域の中で障害者が共生しているかどうか

障害に対する理解や差別については、外出するとじろじろ見られるという意見や、地域の方が障害者に無関心になっているという意見がありました。

(6) バリアフリー化の取り組みについて

◆トイレに関する意見が多く、設備面の意見が多い

トイレの設備に関する意見が多くありました。障害者のトイレ利用に関する理解を進めてほしいという意見がありました。

(7) 防災体制の整備について

◆避難所に関する意見が多い

防災体制に関する意見としては、避難所での生活や、避難所での生活をあきらめているなどの意見がありました。

(8) 市の障害福祉施策について

市の施策をより充実してほしいという意見や、障害の区分により受けられるサービスの差が大きいなどの意見がありました。

3 家族会・事業者団体連絡会

(1) 団体について

◆活動の内容～会員間での情報交換が主

団体の性格上、会員間で情報交換、親睦などが主となっています。

◆団体としての課題～参加者の高齢化が進む

会員の減少が進んでいます。また、予算の制約があるために活動場所の確保が困難になっているという意見がありました。

◆地域の中で果たすべき役割について～地域の方の理解を深める

障害者が地域の中で生活できるよう、実施事業を通じて市民の理解を深めていくことが重要との意見がありました。

(2) 相談支援体制について

◆利用することが多い相談機関～相談先は多様である

利用することが多い相談機関については、障害企画課、保健福祉センター、健康センターなど多岐にわたっています。

◆会員の方への情報提供～定例総会やイベント時に周知を図る

会員の方への情報提供については、定例総会やイベント時を活用して周知を図っています。

◆相談支援に関する意見～相談機関の充実を求める声が多い

相談機関のさらなる充実を求める意見がありました。

(3) サービス利用について

◆会員の方が利用することが多いサービス～自立に向けたスキルの獲得

障害者が自立するためのスキルを獲得するためのサービスに関する意見がありました。また、必要な時になかなか使えないなどという意見がありました。

◆今後充実してほしいサービス～支援センターの充実やピアサポートの実施

今後充実してほしいサービスとしては、支援センターの充実や、ピアサポートの実施、その他必要な情報提供を求める意見がありました。

(4) 療育・教育、就労について

◆一般就労のために必要なこと～短時間労働やジョブコーチの意見が多い

短時間労働やジョブコーチに関するご意見がありました。

(5) 障害に対する理解や差別について

◆「家族」「医師」に関する意見が多い

障害に対する理解を進める上では「家族」「医師」に関するご意見がありました。また、地域の方との交流を進めていくことが必要とのご意見がありました。

(6) バリアフリー化の取り組みについて

特になし

(7) 防災体制の整備について

◆避難所や薬に関する意見が多い

防災面では、避難所での生活に関するご意見や、薬の確保を心配する意見がありました。

(8) 市の障害福祉施策について

グループホーム設立のための条件緩和、ワークホーム制度の存続、精神障害者の理解促進に関する意見がありました。

